

2017-18 ROTARY INTERNATIONAL District 2710 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



2017-18 年度
国際ロータリー第 2710 地区 ガバナー

藤中秀幸

GOVERNOR: Hideyuki Fujinaka
IWAKUNI CHUO ROTARY CLUB

「母子の健康月間」に寄せて

4月は「母子の健康月間」です。国連は2015年9月25日、2000年に策定した「国連ミレニアム開発目標」(MDGs)が終了するのを受け、向こう15年間の国際社会の共通目標として新たな「持続可能な開発のための2030アジェンダ」(SDGs)を策定しました。その持続可能な開発目標として策定した17ゴールの1つに、豊かな社会構築にとって極めて重要不可欠な課題として、あらゆる年齢のすべての人々に健康な生活を確保し、福祉を増進することが提唱されています。

近年、健康と福祉の増進は著しい進歩をとげています。しかし、医療へのアクセスの不平等は残ったままで、疾病、栄養失調、医療の不備、不適切な衛生設備が原因で5歳の誕生日を待たずして命を失う子供は600万人を超えています。子供たちの未来を握るのは生を授かってからの1000日間、2歳までの間の栄養状態で決まるといわれています。十分な栄養が摂取できないと健康や脳の発達に影響を受け、一生大きなダメージを背負うことになり、病気による死亡のリスクも高まります。また、妊産婦死亡率についても1990年以来ほぼ50%減少しましたが、サハラ以南のアフリカでは、39人に1人の女性が妊娠中又は出産による合併症で亡くなっています。すべての人に健康な

生活を確保するためには、多額の費用がかかります。健全な経済、社会を支える基盤は人の健康であり、その恩恵は費用を大きく上廻ります。

ロータリー財団は、ロータリアンが次の形で母子の健康を改善することを支援しています。

1. 5歳未満の幼児の死亡率と罹患率の削減
2. 妊婦の死亡率と罹患率の削減
3. より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供、地域社会の医療／保健関係のリーダーと医療提供者を対象とした母子の健康に関する研修
4. 母子の健康に関連した仕事で活躍していくことを目指す専門職業人のための奨学金の支援

当地区においてもグローバル補助金を活用して、これまでも母子の健康を守るためのプロジェクトを実施しています。広島南RCによる「カンボジア乳がん検診プロジェクト」、呉南RCによる「フィリピン周産期医療支援プロジェクト」、東広島21RCを主担当クラブに地区内20RCが参加した「ボリビア水頭症治療プロジェクト」など、その他にも地区第1グループ6クラブは、合同でミャンマーの貧しい人々を対象に医療活動を行っているNPO法人ジャパンハートに胎児心音診断装置を贈るなど、独自の支援を行っています。

国内においても、乳がんや子宮頸がん等の罹患率の削減が強く求められています。田原直前ガバナーの提唱で2年目を迎えた「がん予防推進活動」についても積極的な対応が必要です。まず、自分自身や家族の健康な生活を守り、職場や地域の人々とサポートし合える「地域共生社会」の実現に向けて連携を強めて行きましょう。

ロータリー：変化をもたらす



Contents

ガバナーメッセージ.....1	G5 IM 報告.....5
母子の健康月間によせて.....2	G10・G11 合同 IM 報告.....5~6
ロータリー青少年交換プログラム 中四国3地区合同オリエンテーション報告.....3	G4 IM 報告.....6
G2 IM 報告.....4	会員増減・出席率(2月度) 特別コラム.....7
G1 IM 報告.....4~5	新会員紹介 文庫通信.....8

ガバナー月信 2018年4月号



母子の健康月間によせて

国際ロータリー第2710地区 パストガバナー 東 良輝

今月は「母子の健康月間」です。「ロータリーの目的」の1つとして、奉仕の理念に結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進することとあります。ロータリーの最終目的は「世界の永遠の平和」です。そのためには、この地球上から貧困と飢餓をなくし、劣悪な環境から子ども達をまもり、乳幼児の死亡率を下げるよう努力すべきです。

さて、母子保健に関しましては以前、私のガバナー年度の月信で述べており、繰り返しになりますが、現在、日本人の平均寿命は男女合わせて84歳と世界一を誇っています。しかし、明治時代では、欧米に比べ、日本は寿命の短い国に分類されていました。その後、昭和50年にスウェーデンを抜き、世界一の長寿国に躍り出たのを契機に現在まで世界一を誇っています。その理由の1つとして母子保健の充実により、乳幼児、新生児の死亡率が極端に低下したことが挙げられます。一方、発展途上国、紛争地域においては、未だに、衛生状態が劣悪で、特に妊産婦、新生児の死亡率が極めて高い状態が続いています。

世界保健統計によりますと、新生児死亡率が高い国は①アンゴラ②ソマリア③ギニアビサウとなっており、乳児死亡率では①シエラレオネ②アンゴラ③中央アフリカ共和国となっています。これは平均寿命が短い国①シエラレオネ②ソレト③中央アフリカ共和国④コンゴ民主共和国⑤チャドと明白な相関関係が窺えます。

日本での乳児死亡数、新生児死亡数は、1899年では乳児死亡率15.38%と今では考えられない数字ですが、現在では0.12%。また、よりリスクの高い新生児では、0.09%とほぼ0に近い状態で推移し、乳幼児、新生児の死亡率の低さでは世界トップクラスです。その要因として、日本が世界に誇る「母子手帳」の交付を忘れてはなりません。この制度の特徴は妊産婦、新生児、小児に対して一貫して継続的なケアを行うもので、この手帳の交付により妊産婦、新生児、乳幼児の死亡率が一段と低下してきたのは間違いのない事実です。

最近のWHOの研究で、妊産婦の死亡の原因としてその1/4は、もともと罹っていた糖尿病、HIV等の病気に起因することが判明し、それらが妊娠により悪化するため、出産時の出血多量で死亡するケースが多いことが判明しました。また、新生児の死亡に目を向けますと、今なお760万人の子ども達が死亡しております。中でもサハラ以南のアフリカ、南アジア、オセアニアなどでは、いまだに厳しい状態が続いています。即ち、5歳以下の幼児の死亡の内40%は生後1か月以内の新生児で、その原因の8割は早産、低体重、感染症、新生児仮死、並びに出産時外傷であったと報告されております。これらは殆どが人的要因で、努力すれば避けることができることも確かです。

さて、ここでロータリーとしてはこの問題に対してどのような取り組みをなすべきかを真剣に考えてゆかねばなりません。これまでロータリーが取り組んできた「水問題」を含めた生活環境の改善が強く望まれるところです。また、ポリオ撲滅に関してはもう目の前です。ロータリーが目的として掲げる「世界の永遠の平和」を達成するためには、「母子の健康問題」は避けては通れません。ロータリアンの皆様の今後一層のご努力を期待する次第です。





ロータリー青少年交換プログラム 中四国3地区合同オリエンテーション報告

2017-18年度 国際ロータリー第2710地区 青少年交換委員長 亀岡 法芳

2月3日(土)から4日(日)の2日間で中四国3地区合同の青少年交換オリエンテーションを倉敷シーサイドホテルにて開催いたしました。

第2670地区(四国)、第2690地区(岡山・鳥取・島根)との合同で毎年行っています。

この度の参加者は受入学生、次年度派遣学生、ローテックス合わせて60名以上の開催となりました。今回は当地区からは、大久保前年度委員長・加藤次年度委員長・亀岡の3名が参加いたしました。

今回のオリエンテーションは、次年度派遣学生のロータリーへの理解を深め、留学中の注意事項等を取得してもらい、また、国際ロータリーの平和貢献の実績と後進国への社会支援事業の実績等を理解してもらうための2日間でした。また、今年度受入学生には、日本に対する理解を深めてもらうため、エクスカッションで倉敷美観地区等の視察・観光も実施いたしました。

1日目の講師としてローテックスでもある根本佳織先生、2日目は海外支援事業の数々の実績がある鬼丸昌也先生にオリエンテーションの講師としてお世話になりました。

夕食後は学生たちだけの自己アピールの時間を設け、それぞれ個性のあるアピールで学生同士の交流を図りました。また、ローテックスも交えて大変有効な情報交換の場となり、派遣

学生、受入学生にとって貴重な時間となったことは、大変喜ばしいことです。

2日目は、学生たちの発表の場もあり、不安から自信へと変わっていく姿がその場で感じられました。2日間にわたる内容の濃いオリエンテーションが無事に終了し、学生たちの著しい成長を感じ取れた非常に有意義な2日間であったと思います。

当地区では、次年度はアメリカへ2名、カナダへ1名、フランスへ1名の計4名の派遣学生が決定しております。そして、受入学生は日本語の理解度も高く、元気に日本留学を満喫しているようで安心しております。また、4月には3地区合同の京都視察旅行を実施します。受入学生も派遣学生も大変楽しみにしているようで、無事故で楽しい研修旅行になるよう微力ですがお手伝いをさせていただきます。

地区ロータリアンの皆様におかれましては、青少年交換事業に引き続きご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。ご報告とさせていただきます。





G2 IM報告

2017-18年度 国際ロータリー第2710地区 G2ガバナー補佐 山田 通夫

2018年2月3日(土)、宇部市文化会館3F文化ホールで本会議を、懇親会は国際ホテル宇部で開催。最強の「寒波襲来」との予報をうまく回避して、萩、美祢、山陽小野田と地元宇部の7市、7クラブの皆さん150名の集まりとなりました。

定刻に本会議に入り、ガバナー補佐山田通夫、ホストクラブ会長・宇部西RCの綿田敏孝よりの歓迎のあいさつ

について、藤中秀幸ガバナーより「然るべき運命を切り開くには、常に進化し、時には革命的に」とのポール・ハリスの主張を中心に不易流行の精神で、ロータリーの理念やクラブの歴史を踏まえながら各クラブの運営の現況について評価されました。

ガバナーの紹介で宇部ローターアクトクラブ会長より資料持参で地区アクトクラブの現況についての説明があり、会員減少と経費負担の公平感についての課題を話され、われわれへの支援を期待するという話がありました。



基調講演は高水学園、岩国短期大学・山縣明人教授にお願いしました。タイトルは「新たな時代の波頭を越えるロータリークラブの社会的使命と実践」でした。講師の山縣教授は

1973-74年度のロータリー青少年交換学生として、アメリカへ留学しておられます。吉田松陰をはじめとする日本思想史の研究者であり、教育者です。

まずは「自分が松陰の故郷の萩に生まれたかった」との導入でG2のロータリアンの聴衆の笑いに始まり、示唆に富んだり賛同するところが多い講演でした。



ロータリークラブの友愛の精神、社会奉仕と仲間との親睦の精神は、現代の日本の社会的意識のなかに深く浸透してきています。この価値観は、日常的なものとして今日では一般社会と共有するものとなり、あらためてロータリアンの社会的使命の意識と実践について再考する必要があるとの指摘は傾聴に値すると思いました。

パネルディスカッションは、「未来のロータリーのために、今成すべきことは一例会の開催回数の見直しを通してー」をテーマに、リーダーに山田通夫ガバナー補佐、網本昭輝IM実行委員長がなり、波多野充浩(萩)、中村正彦(萩東)、伊藤英彦(美祢)、白澤宏幸(小野田)、金子準二(宇部)、矢田真弓(宇部東)、綿田敏幸(宇部西)の皆さんから各クラブの現況や委員の意向などについて報告があり、議論・質問がなされました。



例会月4回が3クラブ、月3回が3クラブ、月2回が1クラブでしたが、来年度は少し変化するようです。夜間例会はシニアのロータリアンには評判があまり良くなく、自動車を通勤に使われる会員の多いクラブではアルコール飲料はなし、もしくは夜間例会を止める方向とのこと。若手の会員には遅い時間の例会がよく、シニアでは出席率が低下していて、例会回数は来年度の問題ともなっています。「出席率」について考え方がいくつかありました。

催物なしのいささか短時間の懇親会でしたが、さわやかな雰囲気です。会が終了しました。



G1 IM報告

2017-18年度 国際ロータリー第2710地区 G1ガバナー補佐 室中 俊郎

グループ1のIMは、下関・下関東・下関北・下関中央・長門・下関西の各ロータリークラブ計244名の全員登録をいただき、2月17日(土)14:00より、下関のシーモールパレスにおいて開催いたしました。

ご来賓として、ガバナー・藤中秀幸様、パストガバナー・永富稔様、沖田哲義様、NPO法人ジャパンハート理事長・吉岡春菜様をお迎えいたしました。

基調講演は地区研修リーダーの沖田哲義パストガバナーによる

「元気なクラブとは」という演題で、47頁にも及ぶ資料(全員配布)による勉強会が行われました。元気なクラブになる為にはまずロータリーをよく知るといふ基本を教えていただき、参加者全員が新会員当時に戻った様に目を輝かせた1時間の



講演でした。

続いて、ジャパンハートの吉岡春菜理事長より、2年前にグループ1が寄贈したミャンマーでの胎児ドップラー使用状況の報告がありました。

16:00からのパネルディスカッションでは、パネラーとして各クラブの会長様にご登場していただき、「各クラブの自慢の活動」をテーマにユーモアあふれる発表で会場を盛り上げていただきました。また、出席された会長様が、会長をやってよかった、クラブ会員の暖かい応援が活力になったと感謝され、これからすべての会員が会長になる機会があれば、是非挑戦していただきたいというメッセージを参加者全員へ贈って終了いたしました。

17:40からの懇親会は、主管クラブ下関西RC会長井上統之様の挨拶とパストガバナー永富稔様の乾杯の音頭をいただき、親睦と

友情を深める会となりました。

最後になりましたが、今回のIMは藤中ガバナーが提唱されておられる「クラブの元気が地域の元気」のテーマのもと開催させていただきました。

皆さまの御協力に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



G5 IM報告

2017-18年度 国際ロータリー第2710地区 G5ガバナー補佐 秋田 京子



国際ロータリー第2710地区G5IMは、2月4日(日)柳井市で開催されました。当日は雪のちらつく寒い日にもかかわらず、藤中ガバナー、西村パストガバナー、田村パストガバナー、そして多くの会員の方のご参加をいただきました。

今年度のIMはテーマ1として昨年度からの継続事業であります「がん予防について」岩国ロータリークラブの木村直躬先生にご講演をいただき、がんを負けないために早期の検査、発見が大切であり、早くからがん予防のための生活習慣を身につける教育の大切さについてお話いただきました。

テーマ2では「ロータリーの魅力再発見」と題して西村パストガバナーにG5の岩国、柳井地区の歴史的つながりの中で、この地区がいかに協力して今後のロータリー奉仕活動ができるか、それこそがロータリーの魅力であるとお話をいただきました。

その後、「クラブの奉仕自慢」のテーマのもと各クラブよりパネリスト5名による発表をしていただきました。5クラブそれぞれ異なった素晴らしい奉仕活動自慢を披露していただき、大変爽やかなパネル

ディスカッションとなりました。今後は是非G5で共有協力し、情報交換しながら継続的な奉仕活動に発展することを願いながら終わることができました。

懇親会のアトラクションでは地元出身の歌手・京太郎さん、二胡奏者の今井美樹さんの2人に盛り上げていただきました。



最後に、5クラブ対抗ゲーム大会があり、見事ガバナー輩出クラブ・岩国中央ロータリークラブの優勝で和やかに幕を閉じました。

終わりにりましたが、今回のIM開催にあたりご協力いただきました関係者の皆さま、御参加いただいた各クラブの会員の方々に心より感謝申し上げます。有難うございました。



G10・G11合同IM報告

2017-18年度 国際ロータリー第2710地区 G10ガバナー補佐 小西 直人
2017-18年度 国際ロータリー第2710地区 G11ガバナー補佐 瀬来 和男

RI2710地区G10・G11合同IMは、2月18日(日)に福山ニューキャッスルホテルにおいて、本会議は福山南クラブ、懇親会は福山東クラブ担当のもと、両グループの11クラブから467名が参加、福山市長・枝広直幹様及び特定非営利活動法人グリーンラインを愛する会

理事長・丸山孝志様、さらに地区ガバナー・藤中秀幸様を筆頭に8名のロータリー来賓のご臨席を賜り開催されました。

今年度のテーマは、藤中ガバナーの掲げられた目標「ロータリーの元気は地域の元気」を受け「連携して地域にできること」とし、



第1部は枝広市長による「新しい年を迎えて果敢にチャレンジ2018・活力と魅力に満ちた輝く福山」と題した基調講演で、「住む・観る・憩う・学ぶ・働く・集う・発信する」という都市機能の現在および将来に亘る施策の説明があり、フィンランドの子育て支援制度を一早く導入した「福山ネウボラ」、地域の持つ強みを活かしたワンストップで商談のできる「素材マルシェ」の創設、あるいは官民協同海外留学制度等々の紹介があり、今後地域に対して行う奉仕活動の方向性について示唆に富むプレゼンテーションをいただきました。第2部はG10・G11各クラブの活動報告で、まずRIライズリー会長の一人1本の植樹提案を受け、1月に全クラブが参加し、グリーンラインを愛する会との協賛・協力の下で行われた「ゆきやなぎの植樹事業」の紹介がありました。植樹風景をドローンで撮影した映像は迫力満点でした。

続いて各クラブの1年間の活動が映像とナレーションで紹介され、知っているようで知らない他クラブの活動を知るとともに、それぞれのクラブがそれぞれに意義ある奉仕活動を行っていることが確認できました。第3部は米山奨学生、青少年交換留学生、ローターアクト会長、インターアクトの高校生合わせて7名が壇上に上がり、日々の活動内容や抱負、あるいは直面している悩み等を自分の言葉で語り、お世話クラブ以外のロータリーメンバーに「本当の顔」を知ってもらえました。

天野肇PGの乾杯で始まった懇親会は、アトラクションとして、福山

を中心に活躍するトランペット奏者・崎谷ゆかりさんが率いるローズエンジェル10名の奏でるプラスバンドの明るくかつ重厚な演奏に参加者全員が聞きほれ、また、見とれ、テーブルを超えて他クラブとの、また、旧知のロータリアンとの交流で盛り上がりました。昨年入会の新会員21人が壇上に上がり、ローズエンジェルの音楽クイズを楽しみながら自己紹介、会場から激励と大きな拍手を受けました。



G4 IM報告

2017-18年度 国際ロータリー第2710地区 G4ガバナー補佐 藤村 哲一



G4のIMは、2月24日(土)遠石会館にて、来賓の藤中ガバナー、岡田パストガバナー、蔵清次年度ガバナー補佐をお迎えし、5RCより219名の登録を頂き開催しました。開会前に、無事IMが滞り

なく終わるようにと、秘かにお参りをして臨みました。

IM基調講演講師は、学校法人高水学園岩国短期大学教授の山縣明人氏です。周南市出身の方で、演題は「新たな時代の波頭を超えるロータリークラブの社会的使命と実践」です。PETSの分科会で聞いた講演でのインパクトが強烈に残っており、即決。当日も予想通りの講(好)演でした。今までのやり方考え方では通用しない時代が来ている、これを「現状の終わりの始まり」と言われ、これからの時代は古い御荷物は捨てなければ…そうすれば新しいロータリークラブの社会的使命と実践の在り方が見えてくるのかも知れないと、本当にこれからのロータリーの良き理解者と確信した次第です。

本会議では各クラブの活動報告、テーマは「地域活性化に貢献する社会奉仕」。徳山東RCより「米泉湖水源のもり植樹」「二水会との交流」「50周年事業」、周南西RCは「絵本コンテスト」「環境清掃里親制度を利用した市道臨港線清掃活動」、光RCは地域に

寄り添う活動とし「RI植樹チャレンジ」「東京オリンピックに向けて支援指導」、特に「がん検診受診率向上プロジェクト」では、会員相互の意識はG4の中ではトップでしょう。徳山セントラルRCは「小学生ソフトテニス大会」「釣り大会」等の支援、「出前授業」。徳山RCは回天の特攻基地のあった大津島での「桜の植樹」「茶室石柱庵寄付」への取組、各クラブ共に地元貢献した活動で、多くがメディアに取り上げられていました。

そして、藤中ガバナーの適確な講評を頂き、その後懇親会。吉本興業の地元で「住みます芸人」「ふく太郎・ふく子」による漫才の後、地元大津島で創られた地ビールSUDAIDAIで乾杯。地元酒蔵の日本酒で大いに盛り上がり懇親を深めました。

最後に、各クラブの会長幹事様、会員の皆様の心広き友情にて、無事IMが終了致しました事に感謝申し上げ、報告と致します。有難うございました。



国際ロータリー第2710地区 2017-18年度会員増減・出席率(2018年2月度)

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月末日	内女性	本年度	
						入会	退会
1	長門	88.63	25	25	4	1	1
	下関	75.56	49	49	1	2	2
	下関中央	83.25	31	35	6	4	0
	下関東	75.32	54	58	3	6	2
	下関北	88.19	43	44	0	3	2
	下関西	81.97	35	34	1	0	1
	計	82.15	237	245	15	16	8
2	萩	94.84	57	55	0	3	5
	萩東	97.71	22	23	1	1	0
	美祢	81.19	24	23	0	1	2
	小野田	81.20	35	37	3	3	1
	宇部	93.93	46	47	3	2	1
	宇部東	69.13	14	14	2	1	1
	宇部西	90.24	53	53	3	2	2
計	86.89	251	252	12	13	12	
3	防府	92.08	54	60	2	7	1
	防府北	84.58	17	20	1	3	0
	防府南	92.05	37	38	7	2	1
	山口	87.83	50	53	4	6	3
	山口県央	93.38	30	32	1	3	1
	山口南	87.78	41	42	4	3	2
	計	89.62	229	245	19	24	8
4	光	93.83	44	53	0	9	0
	周南西	88.79	55	55	4	2	2
	徳山	94.20	46	48	1	6	4
	徳山セントラル	94.84	24	26	0	3	1
	徳山東	94.65	51	50	0	2	3
計	93.26	220	232	5	22	10	

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月末日	内女性	本年度	
						入会	退会
5	岩国	85.05	60	64	0	9	5
	岩国中央	89.94	44	44	3	0	0
	岩国西	86.47	59	62	4	3	0
	柳井	100.00	33	32	2	0	1
	柳井西	95.43	24	24	2	2	2
	計	91.38	220	226	11	14	8
6	広島	99.58	115	126	1	14	3
	広島安芸	96.49	39	41	3	3	1
	広島安佐	85.99	25	21	2	1	5
	広島東	99.13	95	108	8	16	3
	広島北	100.00	92	95	0	7	4
	広島陵北	99.44	51	53	3	4	2
	大竹	87.56	32	34	0	3	1
計	95.46	449	478	17	48	19	
7	広島中央	99.83	78	80	6	5	3
	広島廿日市	95.48	33	34	2	2	1
	広島城南	99.07	44	46	3	3	1
	広島南	99.36	88	89	0	3	2
	広島東南	99.97	100	101	13	4	3
	広島西南	100.00	62	63	3	2	1
	広島西	100.00	81	84	2	6	3
計	99.10	486	497	29	25	14	
8	江田島	90.19	18	16	0	0	2
	東広島	97.64	33	33	2	2	2
	東広島21	75.90	18	16	4	0	2
	呉	91.91	65	68	0	5	2
	呉東	91.79	32	32	0	2	2
	呉南	90.90	59	61	3	2	0
	西条	99.84	38	39	3	3	2
計	91.17	263	265	12	14	12	

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月末日	内女性	本年度	
						入会	退会
9	広島空港	85.90	27	27	3	0	0
	因島	91.63	18	20	0	2	0
	三原	91.06	60	60	0	1	1
	尾道	80.38	78	83	2	5	0
	尾道東	90.94	53	53	4	1	1
	瀬戸田	80.00	5	5	0	0	0
	竹原	93.99	32	33	4	1	0
計	87.70	273	281	13	10	2	
10	府中	89.81	26	26	0	0	0
	福山	95.30	81	79	0	5	7
	福山東	91.84	48	48	2	0	0
	福山丸之内	95.37	31	32	1	2	1
	鞆の浦	89.44	23	25	0	2	0
	福山REC2710*	99.81	21	21	4	1	1
	計	93.60	230	231	7	10	9
11	福山赤坂	77.20	48	50	7	2	0
	福山北	92.91	42	42	0	1	1
	福山南	87.41	57	60	2	4	1
	福山西	97.72	40	40	4	1	1
	松永	90.53	53	53	3	1	1
	計	89.15	240	245	16	9	4
	12	吉舎	95.23	18	16	0	0
三次		85.53	39	41	0	3	1
三次中央		93.54	44	43	5	0	1
庄原		85.47	33	33	4	2	2
東城		93.01	19	19	1	0	0
計		90.56	153	152	10	5	6
第2710地区計		89.35	3251	3349	166	210	112

※正式名称「福山ロータリーEクラブ 2710」

特別コラム 日本のロータリー誕生とわが地区史⑩

向笠廣次元RI会長(大分・中津RC)

わが国のロータリー誕生をテーマに始めたコラムが100年史と
なった序に、元RI会長向笠廣次について触れたい。

わが国から排出したRI会長は1968-69年の東ヶ崎潔(テーマ
『参加し敢行しよう!』)、1982-83年向笠廣次(テーマ『人類は
ひとつ、世界中に友情の橋を架けよう』)、そして2012-13年の
田中作次(テーマ『奉仕を通じて平和を』)の僅か3名である。
会員数をはじめ財団への貢献度からすれば、いかにも少ない。
言語の関係も大きい、年功序列を尊ぶわが国の風土が災いし
ているのではないかと。優れた能力を有するロータリアンは早く抜擢
し、若い人材をクラブ会長からガバナーへ、そして国際ロータリー
役員に送り出さねばならない。

さて、表題の最後を飾るこのページは、3名のRI会長の中から
わたしの尊敬するロータリアン・元RI会長向笠廣次(1912~1992)
を誇らしく紹介したい。

向笠廣次は九州帝国大学医学部を卒業し、大分県中津市に
精神科内科医院を開院。1957年4月、中津RC入会。クラブ幹事・
会長を歴任し、1967-68年度第370地区ガバナー、1978-79年度
RI理事、1982-83年度RI会長に就任。彼を送り出した功績者は、
今は亡き第2730地区PG島津久厚と伝えられている。

国際ロータリー第2710地区バスターガバナー 西村 栄時

岩国でのエピソード

彼の温厚な人柄は世界のロータリアン敬慕的的で、わが国ロー
タリアンの評価まで押し上げた功績は大きい。1982年のボカロン
国際協議会で『人類は疑いもなく一つの家族、さあ皆さん、左右
に在るイトコやオジさんと初対面のあいさつをしてください』は語り
草である。

大役を終えた3年後の1986年3月、わがクラブ(岩国西)が
スポンサーとなって設立された、岩国中央クラブ(藤中ガバナー
の出身クラブ)との合同例会卓話者に招聘した。快く応じた彼は、
会長時代に経験した貴重な話題を交え会員に感銘を与えたが、
わたしは案内役の一人として付き添い伺った最も印象に残る話を
紹介したい。

彼は『友人の眼科医が盛んに私をロータリーに誘ってくれた。
しかし、多忙を理由に、毎週昼の時間に出かけることは難しい、と
断り続けた。結局根負けし入会したが、今は諦めずに誘い続けて
くれ、無理やりロータリーに入会させてくれた友人に、心から感謝
している』と述懐していた。

会員の入会促進では、いずれのクラブも苦悩している。誘いた
い人がいれば、向笠会長のことを思い出し、『その人がロータリー
に必要か、その人にとってロータリーは有益か』を熟慮し、誘うから
には愛情をもって熱意を込め、諦めずに粘り強く勧めて欲しい。

(敬称略)

新会員紹介

 数井 弘幸 萩RC 2018年3月8日 電気事業	 高尾 敏恵 広島安芸RC 2018年2月27日 建築	 石井 裕一郎 広島東RC 2018年2月7日 酒類製造販売	 見正 伸也 広島東南RC 2018年2月5日 広告デザイナー	 熊本 裕子 広島西RC 2018年2月15日 仏具製造販売	 川妻 利絵 広島西RC 2018年2月15日 ビル総合管理
 平原 洋一郎 広島西RC 2018年2月15日 医療器具販売	 大谷 博昭 広島西RC 2018年2月15日 税理士	 吉田 浩章 広島西RC 2018年2月15日 ビルディング設備管理	 井町 善信 呉東RC 2018年1月24日 船用部品整備	 中里 嘉孝 呉東RC 2018年2月7日 電気機械器具修理	 山脇 良介 尾道RC 2018年1月12日 高圧ガス販売
 大山 茂生 福山RC 2018年3月5日 通運業	 内平 宏玄 福山RC 2018年3月5日 百貨店	 藤井 啓一 福山RC 2018年3月5日 電力供給	 外野 浩志 鞆の浦RC 2018年2月13日 税理士	 新会員名 所属RC 入会日 職業分類	

<http://www.rotary-bunko.gr.jp/>



「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万4千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

ロータリー情報

「ロータリーの夢と哲学～21世紀のロータリー～」	久野 薫	2018	19p	D.2680西播第二グループIM記念誌
「人類の繁栄とロータリー運動」	中村 尚義	2018	4p	D.2680西播第二グループIM記念誌
「変えてはならないロータリーの基本理念 溢れている情報を整理して理解しましょう」	松田 泰長	2018	1p	D.2790月信
「RLI参加者テキスト(2015-2018年度版)」	RLI日本支部翻訳監修	2016	197p	
「地区リーダーチームの手引き ガバナー補佐・地区委員会委員長研修セミナーテキスト」	服部 芳樹	2018	68p	D.2630
「震災を記憶にとどめ後世に伝える 復興支援・5年のあゆみ」	いわき平中央R.C.	2016	62p	
「東日本大震災支援報告書」	D.2530	2016	130p	
「8・20広島市豪雨土砂災害復興支援報告書」	D.2710	2015	76p	
「災害支援プロジェクト報告書」	D.2660	2012	142p	
「体験『阪神・淡路大震災』」	西宮夙川R.C.	1997	70p	

[上記申込先]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル3階
TEL (03)3433-6456・FAX (03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp/>
開館 = 午前10時～午後5時 休館 = 土・日・祝祭日

国際ロータリー
第2710地区 事務局

〒732-0822 広島市南区松原町 1-5 ホテルグランヴィア広島 6F
TEL:082-506-0055 FAX:082-263-2323 E-mail:info@ri2710.com URL:<http://ri2710.com/>